



令和3年 後期 景況調査報告書

令和3年7～12月期 実績
令和4年1～6月期 見通し
徳之島三町商工会
(令和4年2月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等、地域の経済動向について半期毎に変化の実態等の諸状況を迅速・的確に収集しているものである。
この報告書の中で用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値であり、企業の景気動向を表す指数として利用されている。

＜お天気マークの説明＞

	特に好調 +30.0 以上		好調 +29.9～ +10.0		まあまあ +9.9～ ▲9.9		不振 ▲10.0～ ▲29.9		極めて不振 ▲30.0 以上
---	---------------------	---	-----------------------	---	-----------------------	--	-----------------------	---	----------------------

1. 調査対象期間 令和3年7～12月期を対象とした。令和4年1～6月期は予測値となる。
2. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会 徳之島町商工会・天城町商工会・伊仙町商工会
4. 回答企業 対象企業 29企業
 製造業：6企業 建設業：5企業 小売業：9企業
 サービス業：9企業
 (※徳之島の29企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数とご理解いただきたい。)

島内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
前年同期比	(2020年7月～12月期)		33.3		▲ 37.5		5.0		15.0
前期比	(2021年1月～6月期)		33.3		0.0		▲ 13.3		40.0
来期見通し	(2022年1月～6月期)		25.0		▲ 25.0		0.0		25.0

総合（業況）

前年同期(2020年7月～12月期)と比較した今期の業況は、製造業33.3、建設業▲37.5、小売業5.0、サービス業15.0となった。前期と比較すると製造業は燃料の高騰により輸送費が上がる等の影響がみられたが、コロナウイルスの一時的な落ち着きにより、イベントの再開や飲食店等への消費の活発化により好調となった。建設業については資材の高騰が続いており、また材料の供給の遅れから納期が遅れるなどの影響からまあまあの業況となった。小売業について一時的なコロナウイルスの落ち着きにより持ち直してきているが、今期全体でみると影響は大きく、また食材等の高騰により仕入れ単価が上がっていることもあり業況は不振となった。サービス業は前期に比べコロナウイルスが一時的に落ち着いたことにより需要が回復し、消費が活発化したことで業況は好調となった。それでも大きく不振だった昨季との比較の結果であり、いまだに影響は大きい。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 6企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2020年7月～12月期)		66.7		0.0		0.0		66.7
前期比	(2021年1月～6月期)		33.3		0.0	-	-		66.7
来期見通し	(2022年1月～6月期)		33.3		0.0		0.0		66.7

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

飲食店の活動再開に伴い引き合いも増えてきた。燃料費の上昇により輸送費が大きくなっていることが心配。

経営上の問題点

食品関連製造業についてはコロナウイルスの影響が大きかった。

【建設業】 有効回答数 5企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2020年7月～12月期)		▲ 50.0		0.0		▲ 50.0		▲ 50.0
前期比	(2021年1月～6月期)		0.0		0.0	-	-		0.0
来期見通し	(2022年1月～6月期)		0.0		▲ 50.0		▲ 50.0		0.0

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

引き続き材料の高騰と供給の遅れによる影響を受けている。

経営上の問題点

材料の高騰等に加え人手不足を指摘する企業が多い。

【小売業】 有効回答数 9企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2020年7月～12月期)		20.0		0.0		0.0		0.0
前期比	(2021年1月～6月期)		▲ 40.0		0.0	-	-		0.0
来期見通し	(2022年1月～6月期)		0.0		0.0		0.0		0.0












<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

食品をはじめとする仕入れ額が挙がっており、今後影響が大きくなりそう。

経営上の問題点

大型店舗の存在や仕入れ単価の上昇が主な問題点として挙げられた。

【サービス業】 有効回答数 9企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2020年7月～12月期)		20.0		20.0		0.0		20.0
前期比	(2021年1月～6月期)		40.0		20.0	-	-		60.0
来期見通し	(2022年1月～6月期)		40.0		0.0		20.0		40.0

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

コロナウイルスの状況次第では客数も戻ることがあったがまだまだ苦しく支援金で何とか持ちこたえた状況。仕入れ単価の上昇など新たな問題も見られた。

経営上の問題点

依然としてコロナウイルスによる需要の停滞がほとんどの企業から挙げられた。

《参考となるその他の景況から》

2021年12月13日

日本銀行鹿児島支店

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、全体として緩やかに持ち直している。観光は、持ち直している。住宅投資は、下げ止まっている。公共投資は、高水準で推移している。生産は、緩やかに増加している。

企業部門の動向を短観（12月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）で見ると、景況感
は、回復している。設備投資は、増加している。

こうした企業動向を反映して、労働需給は、改善しつつある。雇用者所得は、
弱い動きとなっている。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額は、前年を上回った。家電販売額は、前年を下回った。

乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を下回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数は、前年を下回って推移している。主要観光施設
入場者数は、前年を上回った。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を下回って推移している。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を上回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、窯業・土石製品、非鉄金属・金属製品を中心に前月を下回った。

6. 雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、上昇した。

現金給与総額は、前年を上回った。

常用労働者数は、前年を上回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を下回った。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。

以上